

シグマ専門委員会第2回設立準備会・記録

38. 2. 11 (13:30~16.00)

於 原産会議室

1. 出席者 百田, 安, 立花, 野沢, 大野の各氏
(幹事外) 森田, 飯島, 新井(寺沢代理), 杉江, 高橋, 桂木の6氏,
(吉田欠)
(関係者) 長柄(原子力局), 西田(原研企画室), (学会事務局)

2. 報告事項

- (1) シグマ専門委員会設立に関する理事会決定事項(第47回理事会議録抜萃配布)
- (2) 2月2日設立準備委員会での決定事項
 - (イ) 委員および幹事の人選
 - (ロ) 研究参加者を求めるため「会誌」1月号に公示する件
- (3) 原研における研究委員会の準備情況

以上3項について百田主査より経過報告があり, 参集者の了承が得られた。

3. 議 事

- (1) 委員会の性格の再確認

委員会の目的について _____ 「炉物理解析に必要な核定数……」の具体的な内容の理解に関連して見解の統一のため討論した結果

- (イ) 炉の構成材料元素の中性子断面積に限るという狭い意味ではない。例えば中性子検出器などで必要な核定数なども対象としうる範囲であると理解する。
- (ロ) 高速中性子領域で, 計算により断面積を求める場合には, 広い範囲の元素
広い範囲のエネルギーについて, あるいはさらに荷電粒子反応について計算を

行ない、核実験からのデータと照合することによつてはじめて計算値の信頼性が確保され向上される。

などの理由から狭い意味ではないとの見解の一致をみた。しかし、計算の作業については委託費の金額に限度があるので、実施に当つては委員会で検討の上緊急を要するものから実施するようにする。

委員会の性格について——専門委員会委員の任期は2年であるので研究計画は2ケ年を見通して作ること。また委員会は委託費の分配により使命の大部分を了るのではなく、明確な学問的見識をもつて終始各委員の有機的な協力の下に活動を行なうこと。研究活動に直接参加していない人達からの提案に対しても、委員会は検討を行ない、独善的にならないこと。などが確認された。

(2) 委託費による計算活動の検討

必要と思われる具体的な計算内容について出席者により意見交換を行なつた意見を整理した結果を別紙に示す。

(3) 人事について

2月2日の準備会での予定委員の内未定のものについては委員としては桂木学、高橋博の両氏および飯島俊吾氏にきめる。

また、原研炉物理よりの幹事として高橋博氏にお願いすることになる。

(4) 今まで委員会設立準備のために集まつていた者でも研究活動に参加を希望する人は「会誌」1月号に公示した様式で申込む。

(5) シグマ・センターについて

議事(2)において部分的な意見が出たが会場の時間切れのため打切る。

以上